

# 第17回玉川・駒沢透析懇話会

平成27年11月14日

二子玉川エクセルホテル東急

# 当院のフットチェックの試み ～現状の評価と今後の検討課題～

<sup>1</sup>(医)城南会西條クリニック鷹番透析室看護課

<sup>2</sup>(医)城南会西條クリニック鷹番腎臓内科

○藤田菊恵<sup>1</sup>、佐藤明子<sup>1</sup>、丹羽寛子<sup>1</sup>、長友まどか<sup>1</sup>、平林喜久子<sup>1</sup>

石川可奈子<sup>1</sup>、岡本理沙<sup>1</sup>、西條公勝<sup>2</sup>、西條元彦<sup>2</sup>

# 背景

当院は患者セルフチェック・ケア、看護師フットチェック・ケアを取り組んできた。足病変の早期発見により患者の足を守ってきた。しかし足病変の早期発見をするためには看護師が日々のフットチェック・ケアを行ってきたことが大きいと考えられる。今回は足病変の早期発見による改善、看護師の負担度を検証した。

## 【目的】

当院のフットチェックの現状を評価  
今後の課題を検討する

## 【研究期間】

2014年1月～12月

## 【対象】

当院外来透析維持患者84名

当院透析看護師6名

# 【方法】

1. 患者ごとに足病変のリスク分類を行う
2. 定期的フットチェックを行い、評価・アセスメント・フットケア介入・患者指導を行う
3. フットチェックによる足病変の早期発見数
4. 足病変の改善件数、増悪件数集計
5. 看護師にアンケート調査

# フットチェック間隔の Protocol




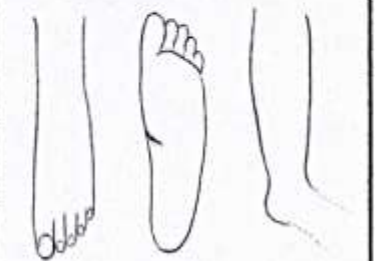
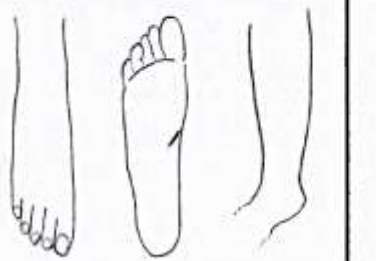
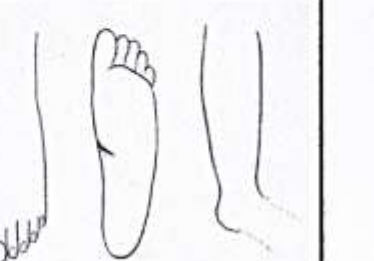
ABI値	点数
1.0-1.29	0
0.91-0.99	10
0.81-0.89	20
0.8以下	30

危険因子	点数
全ての項目で正常	0
知覚障害あり 皮膚・爪の変形の既往なし 足の変形なし	10
足の変形、皮膚・爪の変形を認めるが、潰瘍の既往なし 痺れ・冷感がある	20
潰瘍の既往あり	30

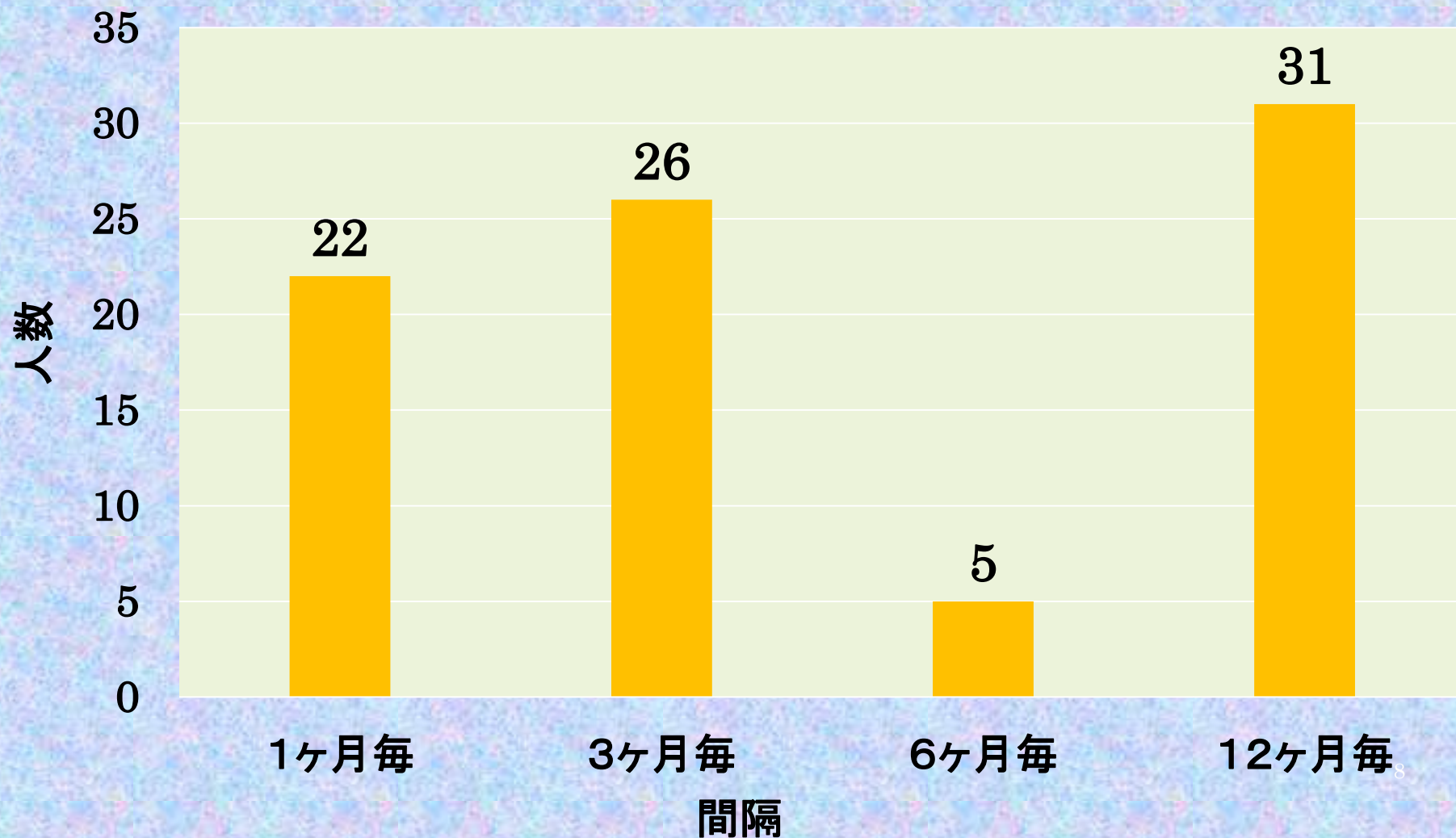
合計 スコア	フットチェック 間隔
0	1/12ヶ月毎
10	1/6ヶ月毎
20	1/3ヶ月毎
30 以上	1/1ヶ月毎

# フットチェックシート



	月 日 担当		月 日 担当	
	右	左	右	左
皮膚の色	異常なし・蒼白・暗紫色・発赤	異常なし・蒼白・暗紫色・発赤	異常なし・蒼白・暗紫色・発赤	異常なし・蒼白・暗紫色・発赤
皮膚温	熱感・温・やや冷・冷感	熱感・温・やや冷・冷感	熱感・温・やや冷・冷感	熱感・温・やや冷・冷感
胼胝・鶏眼 潰瘍形成 白癬 足の変形・傷の有無				
足背動脈触知・ドップラー	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )
後頭骨動脈触知・ドップラー	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )	良好・弱・不可／ドップラー( )
ABI				
処置				
アセスメント				
指導／計画				

# フットチェックの間隔の割合





## フットにかかわる時間

チェック

1人あたり 5～10分

ケア

1人あたり 15～30分

(リスクが高い患者ほど時間がかかる)

看護師1人あたり月1回フットチェック・ケア患者

平均 3～5名



# 使用しているフットチェック・ケア用品

## フットチェック用



モノフィラメント



血流ドップラー

## 爪切りケア



ニッパー

やすり

やすり付きゾンデ

形成異物撮子

## 鶏眼・胼胝ケア



グラインダー

アタッチメント各種

## 角質ケア



レデューサー



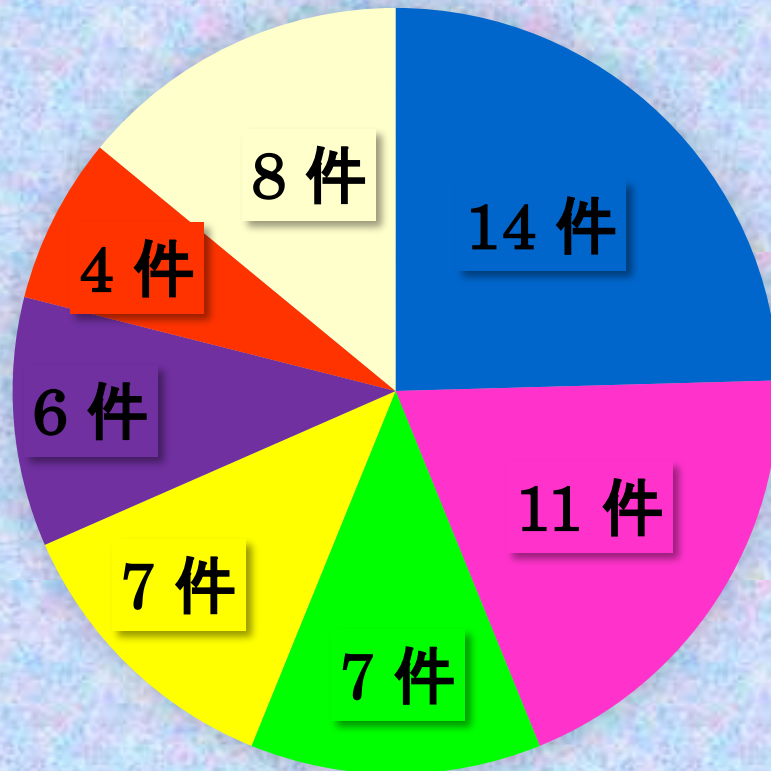
ラップ



保湿クリーム

# 【結果】

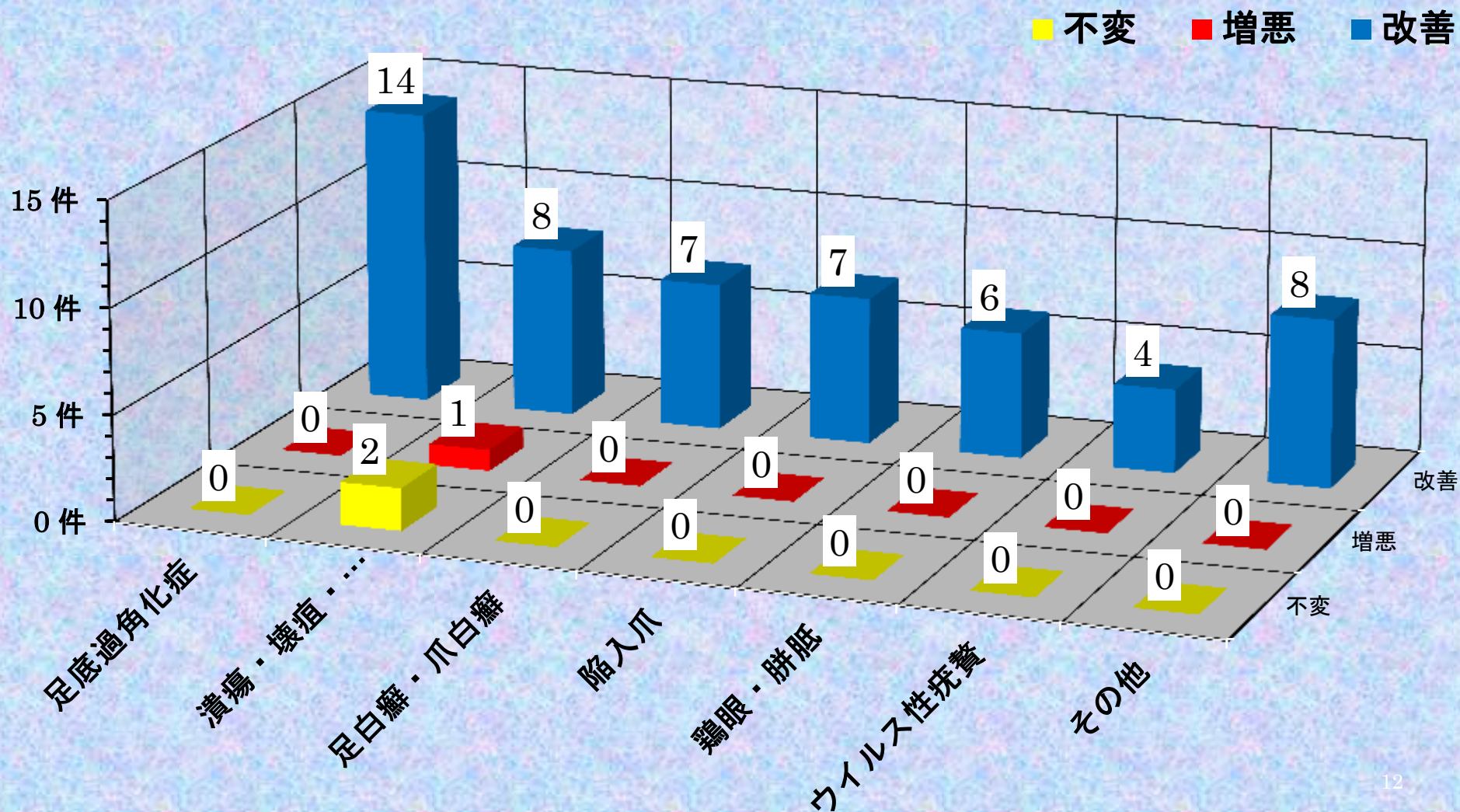
足病変の早期発見 57件



## 内容

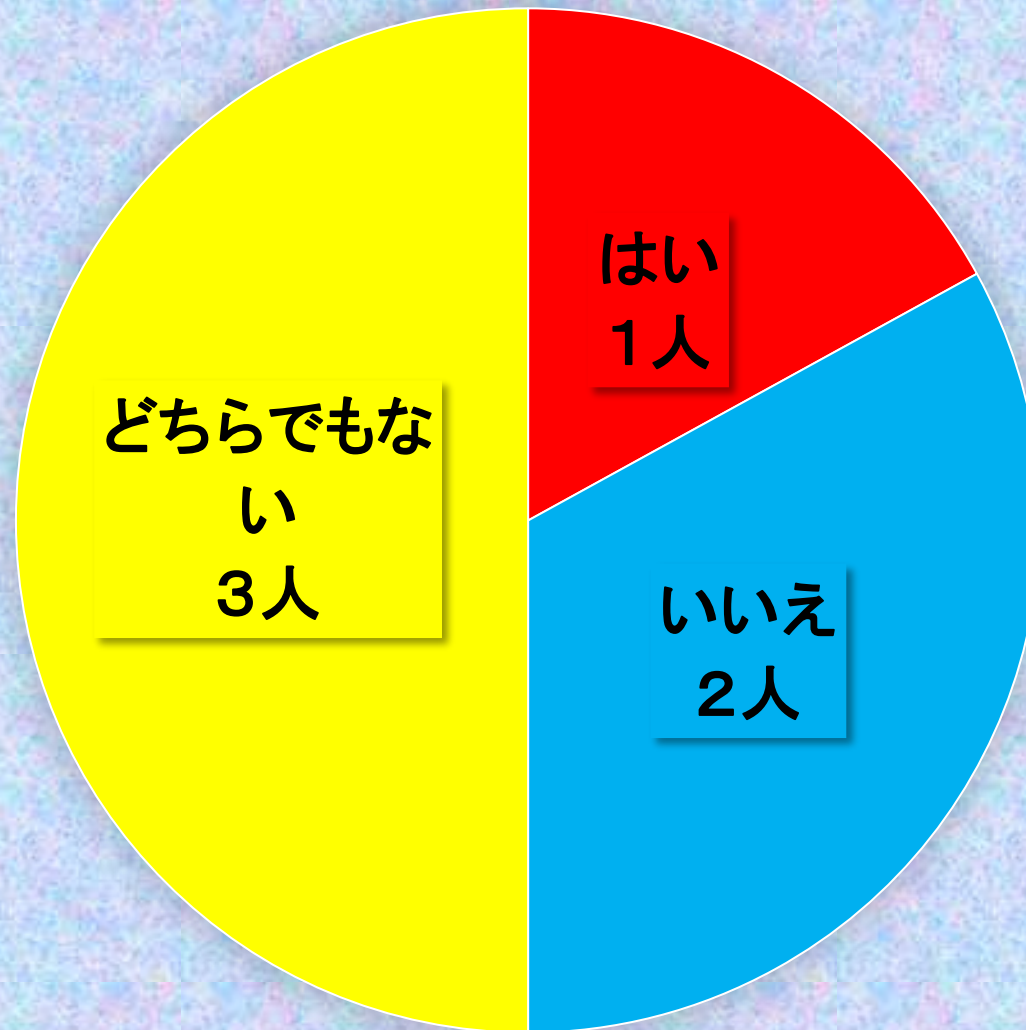
- 足底過角化症
- 潰瘍・壊疽・血行障害
- 足白癬・爪白癬
- 陥入爪
- 鶏眼・胼胝
- ウイルス性疣贅
- その他

# 介入後の成果



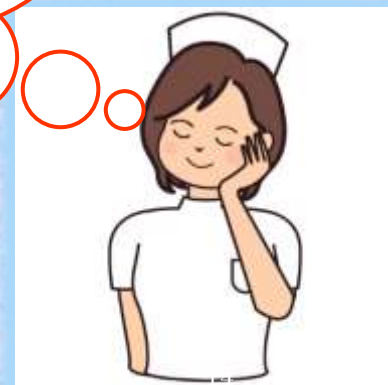
# 看護師アンケート調査

## フットチェックは負担と感じていますか？



# どのような点が負担と感じていますか？

- ・業務多忙
- ・ケアの時間がない
- ・人員不足や一人あたりのケアする人数が多い



# 現在のフットチェック方法で改善したほうが良い と思われる点や意見はありませんか？

- ・リスク分類項目の見直し(喫煙歴等)
- ・患者のフットチェック間隔をどの時点で再評価するのかを明確にしていない
- ・各シフトにおけるフットチェックの時間を決めることで業務がスムーズになるのではないか
- ・毎月フットチェックの日を設けてはどうか
- ・フットチェックにより患者とのコミュニケーション、信頼関係を築ける時間であるため時間がほしい

# 【考察】

1. 定期的・計画的なフットチェックを行うことによって足病変の早期発見や改善ができた。
2. フットチェック・ケアを行うことにより患者自身も足は大切だという意識を持つようになり、セルフチェックに結びついている。
3. 看護師のアンケートでは、なんらかの負担を感じている。しかし、フットチェックやケアにもっと時間をかけていきたいと思っている。



# 【結論】

フットチェックにより早期のケア介入が可能となった。

57件中54件で足病変を改善したことで、現在の方法は有効である。

看護師の負担を軽減させるための工夫や改善が必要である。

## 参考引用文献

日本糖尿病教育・看護学会：糖尿病看護フットケア技術第2版 p150 - 167

日本看護協会出版会(2009)

上村哲司：足病変ケアマニュアル p86 - 96 学研(2010)

**ご清聴ありがとうございました**

